

2022年10月
No. 448号

波紋

創刊 1985年(昭和60年)

第30回元気が出る森松展

たくさんのご来場
ありがとうございました!!

来場者数

9月8日 141名

9月9日 144名

9月10日 15名

合計 300名



実行委員長
安井 浩二

9月8日～9月10日の3日間、「第30回元気が出る森松展」を開催しました。出展社数36社の仕入先様のご協力により多数の材料や商品などをご案内させていただきました。今回は3年ぶりに出展企業の方々も参加され来場者様との会話が弾み久しぶりに活気ある森松展が戻った感じでした。

講演会ではアキレス株式会社 山川氏より「プラスチック資源循環促進法が我々に求めること」のテーマで演説して頂き、視聴された方々には多くの関心を集めた情報収集ができたと思います。来場者数は300名と盛況のうちに無事終了とすることができました。

これもご協力頂きました皆様のおかげでございます。心より御礼申し上げます。

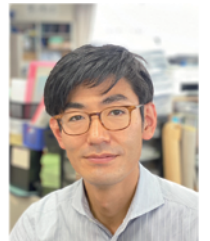
また、ご多忙中のところご来場賜りましたお客様へも重ねて御礼申し上げます。

今後も皆様に一層ご満足頂けますよう「森松マン」は情報を提供し続けますので、来年の「元気が出る森松展」も是非、ご期待ください。

弊社の5階展示場は常設となっておりますので近くにお立ち寄りの際は、お気軽にお越しください。

関心を持つ

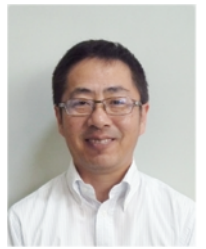
森 直樹（代表取締役社長）



先日、9/8～9/10にて開催されました「第30回元気が出る森松展」ですが、合計300名の来場者を迎え、盛会のうちに終了することができました。30回という節目を迎え、来年もまた引続き皆様に、価値の有る情報を提供できる会であるよう努力して参ります。そして今年も残すところ3ヶ月となりました。個人的には森松展が終わると、今年も残り少なくなったな…と感じます。一年、そしてまた一年と全てが新たな一年です。森松展を始め年間行事は毎年同じ様に繰り返されますが、仕事においては常に状況は変化していきます。また行事にしても仕事にしても、個人個人の間での意思疎通が上手く進まなければ良い結果は出ませんし、何より「抜け」や「漏れ」といった手落ちに即つながります。意思疎通は、相手が何を言いたいのか、何を伝えようとしているか、という関心を持つことがなければ表面的な言葉・文字のやり取りで終わります。しかし、相手の伝えんとする内容に関心を持って聞くことができれば、内容についてより細かな情報が必要なのか、またどうしてそれが必要なのかといった、掘り下げて考えることが出来、さらにやり取りが進みます。しかしながらその関心の度合いは対話の相手によって影響を受けるでしょう。相手がどのような人であれ、その関心をどれだけ高いレベルで維持することができるかどうかで仕事の精度も決まります。「いい仕事」を常に再現できるプロでありたいものです。

ふるさと納税

村田 恒夫（経理部）



先日、うなぎの兼光（愛知県西尾市）で『うなぎづくし御膳』を食べてきました。以前から西尾市の抹茶スイーツ、兼光のうなぎ（父の日に息子夫婦から届いたうなぎが美味しかった）に興味があり、機会があれば行きたいなと思っていました。西尾市のふるさと納税で、兼光のうなぎ：本格炭火焼うなぎ!!『うなぎづくし御膳』ペア食事券（ふるさと納税専用の贅沢御膳）があることを知り、寄付をしました。寄付をした後、2週間ぐらいで食事券が届き、即予約を入れました（週末の予約は混んでいるので1ヶ月先の予約しか取れませんでした）。予約日当日（12:00頃）、兼光に着くと激混みでしたが、事前に予約を入れていたので待つことなく、美味しいうなぎを食べることが出来ました。お店は、まだ新しく店内は清潔感もあり綺麗でした。うなぎを食べた後は、二つ目の目的の抹茶スイーツを目指して松鶴園に併設するカフェ「茶房茶遊」に向かい、抹茶パフェを食べて濃厚な抹茶味を堪能することが出来ました。今回は、ふるさと納税がきっかけで西尾市へ食事（うなぎ）に行くことが出来ましたが、ふるさと納税の返礼品には、肉、果物類、魚貝類以外にも食事券等のチケットも多数含まれています。私がお勧めの食事券は、①岐阜県関市のうなぎお食事券（関市うなぎ専門店4店で使える）と②岐阜県笠松市の安田屋 名物みそ鍋（ご来店2名様分）です。①



のうなぎお食事券は、関市に代表するうなぎ専門店4店「辻屋」「しげ吉」「孫六」「角丸」で利用できるお食事券5,000円分です。個人的には4店の中で「しげ吉」がお勧めです。



いつ行っても長蛇の列で待ち時間が長いですが、無茶苦茶美味しい!! ②の安田屋（140年以上続く老舗の料亭）名物みそ鍋は、ホタテ・和牛ホルモン、牡蠣入り（季節限定）等、赤味噌仕立ての濃厚な旨みはくせになります。これからも、ふるさと納税を利用して食事券をGETし、美味しい店のある街へ出掛けて食事と観光を楽しみたいと思います。

誕生日

伊東 義弥（特販部）



先日9月8日～10日の3日間で森松展を開催いたしました。第30回という節目の会でコロナが始まってから久しぶりに出展企業様にもブースに立ちいただきました。出展企業様、ご来場いただきました皆様のお力添えで大盛況のまま終わることができました。感謝申し上げます。幹事の安井さんはじめ森松の皆様も大変お疲れ様でした。さて、私事ですが、私の長男も先日10歳という節目の誕生日を迎えました。長男の誕生日は店内で釣りができる居酒屋「ざうお」に行ってきました。コロナ禍でなかなか行けなかったのですが節目ということで久しぶりに森松本社から近くのざうお星崎店を利用させていただきました。店内に入ると大きな船の宴会席が2艘あり、その周りに半個室の部屋が大きな生簀を囲うように並んでいます。船上の席だと席に座ったまま釣りをすることができ大変便利なのでいつもは船上の席を選ぶのですが、今回は親戚一同集まったことから大きめの個室を選択。生簀から離れているため残念ながら席から釣りができないためドリンク注文後早速子供たちを連れて釣りに行きます。釣った魚はそのままお店の方にお渡しすると、刺身や塩焼き、煮つけなど様々な調理法で提供してくれます。また、昔は釣った魚は必ず食べないといけないと記憶しておりましたが、今は250円払うとリリースできるようになっていました。お財布に大変優しい仕様になり感謝ですね!!最終的に鯛など3匹を釣り上げ美味しく頂きました。誕生日ということで、店員さん一同から太鼓を叩きながら祝っていただいたりと大変満足そうな顔が見られた誕生日会でした。誕生日おめでとう!!!



緑内障

大橋 康成（配送部）



糖尿病房水担当医から一度近くの眼科でいいので目の検査をして下さい。と言われ検査をしたところ緑内障と診断され、もう8年治療しています。緑内障は、眼圧が高くなることによって視神経が傷つき見える範囲が狭くなったり、部分的に見えなくなったりする病気です。眼圧が正常範囲内の人でも緑内障が起こる事もあります。正常眼圧緑内障と言います。ほとんどの場合、症状が進行するまで自覚症状がない為、検査（眼圧・眼底・視野）などによってはじめて緑内障と診断されます。緑内障には、房水の出口が時間をかけてゆっくりと目詰まりしていく慢性タイプと短時間の間に房水の出口が塞がることで眼圧が急上昇するタイプがあります。慢性タイプは、10年～20年という長い時間をかけて病気が進行する為、初期には自覚症状が殆どありません。急性タイプは、眼痛や吐き気など激しい苦痛を伴って短時間で緑内障が進行する。こちらは、どのタイプかと言うと慢性タイプです。半年前に白内障の手術の時に同時に緑内障の手術もしました。角膜と水晶体の間で眼房水が常に循環していて眼圧が一定に保たれているのですが、眼房水が上手く循環出来ていないので手術しました。毎日、目薬を朝・昼・夕方・夜と4回注しています。

「やっぱり男の子だな」

村橋 敦士（総務部）



「新型コロナウイルス」が世界中で広がってから何年が経過したでしょうか。緊急事態宣言、行動制限、3密回避等、コロナによって生まれた言葉も沢山あるのではないのでしょうか。マスク生活にも良い意味で慣れているとは言え、やはり、夏場のマスク程、辛い事はない。とは言え、家にいると、テレビ・ゲームだと言われかねないので、人混みは避け、且つ、涼しく、子供たちも体を動かせる場所はどこかと考えた結果、このお盆は「茶臼山」と「養老の滝」に行ってきました。両日共に、日差しは強かったものの、山だった事もあって涼しく、快適に過ごせました。「茶臼山」では毎年、行っている鮎の掴み取りがあったため、今年も行いましたが、残念ながら娘は怖くて魚に触れず、滑って服も濡れて大泣き。そんな中で、成長を見せたのが、4歳の息子でした。去年は、全く触れず、魚から逃げていましたが、今年はお姉ちゃんが泣いた姿を見て、お姉ちゃんの方も頑張ると意気込み、ずぶ濡れになりながらも漸く捕まえる事ができた。一方、「養老の滝」では麓にある小川で遊ぶ事が目的に行きました。私・妻・娘共に虫が好きではないが、そこでも成長を見せたのは息子でした。



「養老の滝」の下流で親は川に足をを入れて涼んでいる中で、息子はバッタを捕まえる事に夢中。手では逃げてしまうので、被っていた帽子をアミ替わりに捕まえては逃がす事をずっとやっていました。娘も帽子を取って捕まえるフリをしますが、私と同じく足取りは重く、軽快なステップを刻む息子を見守る事にしか出来ませんでした。自分も昔は毎日の様に川でザリガニを釣ったり、バッタ・セミ等を捕まえていましたが、いつの頃からか出来れば触りたくないと思う様になりました。息子も何れ私と同じ道を辿るのか、若しくは、このまま成長してくれるのか、楽しみです。家でテレビ・ゲームも時には必要ですが、やはり体を動かして、何かを見て・触る事ができる様な体験は大きいと思うので、引き続き、コロナには気をつけつつ、この様な体験ができる場所を狙って行きたいと思います。

第30回元気になる森松展 PHOTO GALLERY



300名のお客様にご来場いただきました!!



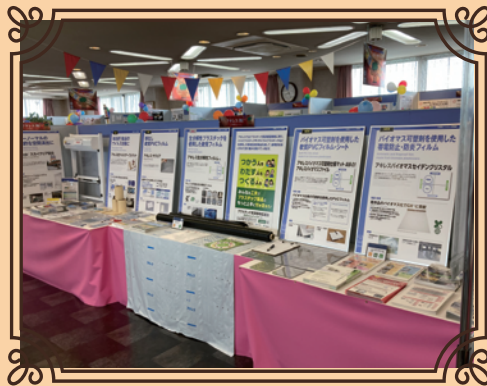
恒例の講演会



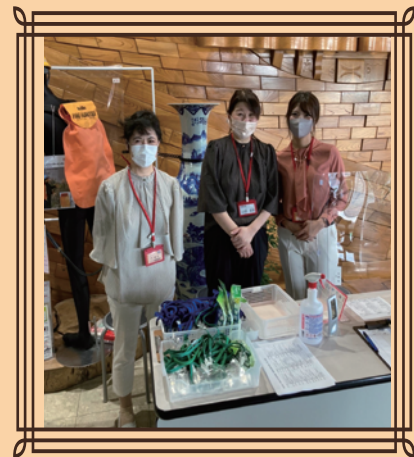
来年の森松展にもご期待下さい!!



PVC アワード作品



環境対応品



ありがとうございました!!

入社後初めての原稿提出です

清水 亮太 (企画営業部)

入社後初めての原稿提出ですので、改めて私のことに少し触れておこうと思います。昨年8月に入社しました清水亮太です、現在は企画営業部の牧野さんの下でお仕事させていただいております。前職はアパレルメーカー勤務、趣味は①サッカー②お酒③海釣りです。①サッカーは小学3年から高校3年までがっつりと、学生生活は“サッカー”のみ”に打ち込み喜びや悲しみ、達成や挫折などいろいろな経験をしてきた少年時代でした。いまま大学時代に入団した社会人サッカーチームに所属しております、が最近では全然行っておりません(笑)②最近では週末しか飲んでおりませんが、もっぱらビールを飲むタイプです、自宅では発泡酒、たまに日本酒を飲みますが、なんでもいける口です(笑)③小さいころから港やテトラポッドから釣りはやっておりましたが、4年前から乗合船に乗って「ジギング」と言われる釣りにはまっております。「ジギング」は鉛やタングステンから成るルアーの「メタルジグ」を海底に沈めてから、簡単に言えば上下に動かすことでターゲットに対してアピールしながら食わせるという釣り方です。釣りが苦手な人の話を聞くと「待っているだけじゃん」「時間が無駄じゃん」と思う方も多いかもかもしれませんが、この釣りは生餌ではないので糸を垂らして待っているだけでは釣れません。どう動かしたら釣れるか、メタルジグは何色が良いか、重さは何グラムが良いか、釣れた人は何色でどんな誘いをしているかなど、常に魚からの反応を待ちつつ頭を動かし、手を動かし、足は揺れに耐え、その中で答えを導きながら釣れたときの達成感は病みつきになります!釣りはホントに奥が深い、と毎度思います。ご覧の通り③の割合が非常に大きくなりましたが、一番のマイブームである証拠です(笑)また次回からは写真付きで書いていきたいと思っています。

